

令和3年度 第1回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年6月28日（月）午後2時から午後3時30分
- 2 開催場所 浜松市立中央図書館 2階 大会議室
- 3 出席状況 委員： 小杉大輔、酒井勇治、石野純子、北脇浩美、永井宏明、三宅栄子、三津間洋子
- 欠席： 大場大晃
- 事務局： 文化振興担当部長 中村公彦、中央図書館長 高瀬理子、館長補佐 山下譲、図書館管理グループ長 内藤真澄、図書館サービスグループ長 鈴木早苗、調査支援グループ長 吉田佐織、資料・情報グループ長 鶴飼康生、天竜図書館長 村雲稔、佐久間図書館長 高氏淳、水窪図書館長 宇井智洋、龍山図書館長 鈴木忠、鈴木加織主任、森田ひとみ主任、柏木麻友子
- 欠席： 春野図書館長 笹竹由美子
- 4 傍聴者 0人（一般：0人、記者：0人）
- 5 議事内容 (1) 図書館事業について
ア 令和2年度事業報告
イ 令和3年度事業計画
(2) 図書館評価について
(3) その他
- 6 会議録作成者 図書館管理グループ 主任 鈴木加織
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音 無

8 会議記録

- | |
|--|
| 1 開会 |
| 2 小杉会長あいさつ |
| 3 中村文化振興担当部長あいさつ |
| 4 議事
(1) 図書館事業について
ア 令和2年度事業報告
イ 令和3年度事業計画
鈴木図書館サービスグループ長が説明 |

◆資料1 _令和2年度事業報告

◆資料2 _令和3年度主要事業計画

質 問 意 見

三 津 間 委 員

子供にとって良い本を学校図書館に取り揃えるため、学校図書館補助員は、研修を受けスキルアップをしたいと考えている。教諭は、浜松市教育委員会・浜松市教育センター主催の学校職員向け図書館研修を受けるが、学校図書館で子供と接する機会が多い図書館補助員とは、その研修についての話し合いをする時間がなかなか取れない。浜松市立図書館で学校図書館補助員向け図書館研修を引き続き行ってほしい。

調べ学習講座、親子新聞講座は、自ら課題を持ち、資料を集め、整理する内容である。これらの講座は、「子供のやってみよう」という気持ちを伸ばす機会を提供している。子供が将来、課題を持った時、どのように資料を集め、整理していくべきかを考える機会となり将来役に立つだろう。今後も、調べ学習講座、親子新聞講座を続けてほしい。

小 杉 会 長

「令和2年度事業報告」の14頁、『ボランティア受け入れ』では、中学生ボランティアの人数が増えている。ボランティアを行うと内申書に書けるといいうメリットがあるのか。

鈴 木 G 長

2年前に、指導主事として中央図書館に在籍していた中学校の教職員から、図書館ボランティアを行ったと内申書に書いたことによるメリットはあまりないのではないかと聞いた。

小 杉 会 長

中学生ボランティアが増えているのは素晴らしい。高校生ボランティアも同じように増えていくのが自然だと思うが、申し込みはゼロである。申し込みがない理由として何が考えられるか。

高 瀬 館 長

中学生ボランティアに関しては、市内中学校全てにチラシを配布している。高校生からは、中学の頃に行ったボランティアを、引き続き高校でも行いたいという話があり、希望する高校生を受け入れる予定であったが、昨年度はゼロであった。高校へはチラシを配布していない。中学生に比べ、高校生へは積極的な投げかけを行っていない。

鈴 木 G 長

ボランティアに関して、高校生だけでなく大学生へも投げかけを行っていききたい。

永 井 委 員

ボランティアを行うことは、内申書に多少なりとも影響があり、それをメリットとして取り組む中学生もいると感じるが、今までになかった経験を得るきっかけになるとも感じる。

鈴 木 G 長

実際に、中学生ボランティアを経験した学生が、ボランティア終了後、図書館利用者登録をした例があった。

永 井 委 員

学生は、コロナ禍で学校行事などが少なくなり、勉強・部活動以外で幅広く経験する機会が減っている。年1回行うボランティア活動は、社会経験を積む機会のひとつとしては非常に重要だと考える。

三宅委員	コロナ禍で講演会の中止が増えている。報告書からは、コロナ禍であっても、なんとか講座や講演会を開催していた努力が見られる。
酒井委員	中央図書館大規模改修工事を行うことで、中央図書館を主に利用していた利用者にとってサービスが低下すると感じる。どのように乗り切るのか。
鈴木G長	今後、中央図書館臨時窓口を開設する。中央図書館臨時窓口では、資料の予約・貸出、返却の受付、図書館利用者カードの発行・更新・再発行などを行う予定である。 また、郷土関係の調べもの相談、マイクロフィルム・住宅地図などの一部の郷土資料の閲覧・複写を行っていく。
高瀬館長	郷土資料室がないと困るという意見をいただいている。郷土に関する本を可能な限り中央図書館臨時窓口を持ち込み、郷土資料室にしかない機能を継続して提供したい。
三津間委員	こども郷土研究講座について、郷土資料は、大人は理解できるが、言葉が難解なため、理解することが難しい子供もいる。子供にとって興味があるテーマを扱うのか。
鈴木G長	子供にとって興味を持ちそうなテーマとして、「汽車が浜松市にやってきた」という講座にした。講座に関心を持たせるため、クイズや、穴あき問題を作り、講師が分かり易く浜松市西伊場町の工場で作っていたことも含めて伝えた。
高瀬館長	こども郷土研究講座は、分かり易く伝えたため子供の関心が高く、大変評判がよかった。
三津間委員	「北区4館合同企画『私のおすすめ この1冊』」は、興味深かった。読書週間の時期に合わせて、図書館スタッフと利用者がおすすめる本を紹介する企画で、4館だけでなく広く行っていったらどうか。

(2) 図書館評価について

- ◆資料3_ 図書館評価について
- ◆資料4_ 図書館評価の方法について
- ◆資料5_ 令和2年度浜松市立図書館評価指標
- ◆資料6_ 浜松市立図書館評価（令和2年度）※自己評価

質問意見	
北脇委員	令和2年度浜松市立図書館評価指標目標値を決定した時は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったのか。
内藤G長	当時は令和2年2月で、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に出始めた頃である。
北脇委員	「つくる」で「職員1人当たりの研修参加回数」の評価点が1で、自己評価がCである。コロナ禍であり、評価指標の目標値がそのままでは厳しい。目標値を変更することは考えていなかったのか。

高瀬館長	目標値は、委員会に諮って決定した数値であるので、所管課だけで変更の判断をしていない。目標値に対して達成率は実績から算出しており、コロナ禍によりこのような結果となっている。コロナ禍ではあるが、様々な観点から目標値をそのままにしている。
三津間委員	図書館でリモートによる講座を開いたと聞いたが、リモートによる職員研修は計画しているのか。
高瀬館長	職員研修をリモートで行うことはできると思う。しかし、各館でリモート研修を行うためには、利用者から隔離し、研修を行うことができる個別の部屋が必要であるため、現状では全館一斉に行うことができていない。
三津間委員	何年か後には、リモート研修ができる環境が整備されているとよいと思う。
鈴木G長	リモート研修の設備がない場合、設備が整っている図書館へ出向き、合同で研修を受けることを考えている図書館もある。今年度は医療健康情報コーナーを持つ図書館6館で医療健康情報連絡会をリモートで行う予定である。医療健康情報連絡会のように小規模の研修であれば実現が可能である。しかし、参加者が多数見込まれる児童サービス連絡会などは、リモート研修実施に時間がかかる。
三宅委員	各図書館でリモート研修を行うとなるとWi-Fiの環境は整っているのか。
高瀬館長	Wi-Fiは、中央図書館と城北図書館に利用者用に整備されている。
永井委員	ハード面、ソフト面が整備され、オンラインを行っていく環境が整ってきている。リテラシーの差が生じており、小中学生は教えなくても使えると思うが、シニアの方々はどうか。現在、図書館のデジタルアーカイブは、かなり充実してきている。市民にインターネットを使って図書館機能をどのように利用するかを紹介することで、デジタルアーカイブの視聴など、潜在的な利用者を増やすことができると思う。市民に図書館のインターネット機能について伝えてほしい。
北脇委員	中高生の「情報活用講座」について、開催回数2回で16人であり人数が少ない。是非、この講座を行ってもらいたいと思う。そのためには、PRの仕方を考えてほしい。また、電子図書の冊数が少ない。電子図書に対する方針はあるのか。
鈴木G長	昨年度は、「情報活用講座」を「広報はままつ」に掲載する申し込み期間間に合わなかった。講座の募集は、午前15名、午後15名と2回に分けた。結果的に開催回数2回で16人であったが、少人数のため充実して実施できた。
高瀬館長	電子図書は、「多文化共生」を方向性として打ち出して始めたが、コロナ禍において、非来館で活用できる資料として注目されている。日本は海外に比べ、図書館で提供可能なコンテンツが充実していない。図書館として購入する資料を吟味して、また、紙の図書・電子図書のバランスを見ながら買っていきたい。早急に量を増やすことは考えていない。

- 石 野 委 員 「つながる」では、人と人、人と地域が直接繋がることは難しかったが、それに代えてネットなど情報とは繋がった。「つくる」の副題「わたしたちの図書館を、未来に向けてつくります」に基づき、コロナ禍でどのように図書館機能を果たしていくかということに重点を置いて運営したと思う。読み聞かせは、リモートでは難しい。コロナ禍で、よりよい運営をしてほしい。
- 小 杉 会 長 「はぐくむ」の評価指標「利用に関するアンケート調査における満足度」について、5段階中3.83であったことは低い数字とは思っていない。4と3が多い中での3.83か、5が多い中で2や3がある状態かで見方が変わる。平均値では表せないデータのばらつきを表す、標準偏差や、分散に関連することになるので、これらの値もあわせて提示できるとよい、あるいは、5が何人で、4が何人など分かるとよい。
リモート配信による講座を行いたくても、どのように行ったらよいのか分からないケースがある。リモートによる講座を行うための道具や、撮影にはどのようなテクニックが必要か、配信にはどのような手順が必要か教えてくれる人が必要である。
- 高 瀬 館 長 満足度について、30代、40代、60代、70代以上の方の満足度が上がっている反面、若い世代の方の満足度が下がっていると感じる。職員のリモート配信に関するスキルについては課題と捉えている。
- 吉 田 G 長 浜松市は、職員のZoom配信技術向上に必要性を感じ、Zoomの配信技術の研修を行った。中央図書館職員も出席し技術を磨いた。
- 高 瀬 館 長 手探りではあるが、一部リモート配信での講座も考えている。

(3)その他

無

5 閉 会

9 会議録署名人 小杉 大輔 会長
 三津間 洋子 委員

令和3年6月28日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いがないことを確認しました。

令和 年 月 日

署名 _____

署名 _____